

〔資料〕

英国 (U.K.) における看護学教育について — イングランドとスコットランドの基礎教育および卒後教育を視察して —

宮 本 千津子¹⁾ 田 中 克 子²⁾ 服 部 律 子³⁾ 黒 江 ゆり子⁴⁾

Nursing Education Programs in United Kingdom

Chizuko Miyamoto¹⁾, Katsuko Tanaka²⁾, Ritsuko Hattori³⁾, and Yuriko Kuroe⁴⁾

はじめに

英国 (U.K.: United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland グレートブリテンおよび北部アイルランド連合王国) は, グレートブリテン島, アイルランド島, およびその周囲にある多数の小さな島々から成り立つ国であり, グレートブリテンはイングランド, スコットランド, ウェールズの3国に分かれている。また, アイルランド島の一部の北アイルランドは連合王国に属しているが, それ以外は独立国のアイルランドである。

今回, 私たちは国際交流事業の一貫として, 英国の看護学教育事情 (基礎教育と卒後教育) を視察する機会が得られ, イングランドの教育事情としてロンドンのキングスカレッジとシティロンドン大学の看護学部と関連病院, およびスコットランドの教育事情としてエジンバラのエジンバラ大学看護学部とスコットランド全国協議会 (NBS) を訪問し (表1), 現状についての話を聞く機会が得られたのでここに紹介する。

1. 英国における高等教育の概要

英国の義務教育は5歳で始まり16歳で修了するが, 年齢による学校の区分は地方自治体によって少し異なる。高等教育はイングランドとウェールズではGCE (General Certificate of Education), スコットランドではCSYS (Certificate of Sixth Year Study) という国家試験を受けてAレベルを取得後に大学 (Higher Education) あるいは大学以外の教育機関 (Further Education) に進学することができる。英国の高等教育機関は,

表1 イギリスにおける看護学教育視察先

視察先と日程	看護教育機関・看護管理機関
イングランド (ロンドン) 1月27日～29日	・ King's College London Florence Nightingale School of Nursing and Midwifery (キングスカレッジロンドン看護学部フローレンスナイチンゲール学舎) ・ City University London St. Bartholomew School of Nursing & Midwifery (シティロンドン大学看護学部セントバースロミュー学舎) ・ St. Bartholomew Hospital (セントバースロミュー病院)
スコットランド (エジンバラ) 1月30日 ～2月1日	・ The University of Edinburgh (エジンバラ大学看護学部) ・ NBS: National Board for Nursing, Midwifery, and Health Visiting for Scotland (スコットランド看護助産訪問保健全国協議会)

国が設立した高等教育基金機関の資金提供を受けることができ, また, 1992年の継続・高等教育法によってポリテクニク (Polytechnic) と呼ばれていた職業的なコースをもつ高等教育機関が大学に再編成された歴史を持つ。

看護学教育に携わる高等教育機関もこの時期に一齐に大学に移行しており, 学士課程3年, 修士課程1年, 博士課程3年のところが多い。また, 看護師資格登録の管理はわが国やアメリカ合衆国で行われているような看護師資格取得のための国家や州レベルによる共通資格試験は実施されておらず, 看護学教育制度や看護師資格登録制度は英国看護助産訪問保健中央協議会 (UKCC :

1) 岐阜県立看護大学 機能看護学講座 Management in Nursing, Gifu College of Nursing

2) 岐阜県立看護大学 成熟期看護学講座 Nursing of Adults, Gifu College of Nursing

3) 岐阜県立看護大学 育成期看護学講座 Nursing of Children and Child Rearing Families, Gifu College of Nursing

4) 岐阜県立看護大学 地域基礎看護学講座 Community-based Fundamental Nursing, Gifu College of Nursing

United Kingdom Central Council)^{註1)}とイングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドの4つの全国協議会(National Board)によって管理されている。英国において有資格看護師として実践を行うためには、UKCCへの登録が義務づけられており、登録希望者は、登録前看護基礎教育の修了証明書等を提出しなければならない。そのため、全国協議会の資料においては看護学教育機関のカリキュラムが登録前プログラム(Pre-Registered)と登録後プログラム(Post-Registered)として提示されている。

2. 看護学教育における共通基礎プログラムについて

UKCCが提示する登録前看護基礎教育は、18ヶ月の共通基礎プログラム(Common Foundation Programme)とその後の分野別専門プログラム(Branch Programme)で構成される。学生は共通基礎プログラムにおいて、看護の基本的な知識と技術を学び、分野別専門プログラム(成人、小児、学習障害、精神など)においては特定分野の個人および集団のニーズを満たす能力を身につけるように構成されている。UKCCは教育の質の向上と維持を図るために登録前教育基準を定め、その教育プログラムは、学生が実践における技術と知識の所定のレベルと範囲を示すことが可能なものであり、かつ教育プログラムで要求される最終成果を学習目標として示すことができるものとされている。今回訪問したイングランドおよびスコットランドのそれぞれの大学においても、UKCCの基準に基づいた学生の到達目標が明確に提示されているのが印象的であった。

UKCCによる共通基礎プログラムの到達目標は、領域1：看護における倫理的課題、領域2：看護ケアの提

供、領域3：看護ケアマネジメント、および領域4：個人的専門職的ディベロップメントの四領域に分類され、それぞれ『到達目標 Outcome Statement』、『結果の指標 Outcome Criteria』、および『達成を示す根拠 Evidence of Achievement』が提示されている。領域1の倫理的課題では「看護実践のための専門職規定の意味するところの知識をもって討議する」など5つの到達目標、領域2のケア提供では「効果的なコミュニケーションおよび人間関係の方法・障壁・限界について討議する」など10目標、領域3のケアマネジメントでは「患者／クライアントおよびケア提供者の顕在的・潜在的リスクを明確にし、健康と安全を促進することにそれらの人々が参加できるように寄与する」など3目標、および領域4のディベロップメントでは「自分自身の学習についての責任を示す」など2目標がある。その中の例として、領域1：「看護における倫理的課題」における第一の到達目標(1-1)について、結果の指標、および達成を示す根拠を表2に紹介する(表2)。英国において看護学生がどのようなことを学ぶことが期待されているかの一部を知ることができるであろう。

3. City University London 大学のカリキュラム例

—各モジュールのプログラム—

次に紹介するのは、City University London のパイロットカリキュラムである。これは、2000年9月にナショナル・ヘルスサービス(NHS: National Health Service)^{註2)}が新しいカリキュラムの開発のために募集して選ばれた16校のカリキュラムのうちのひとつであり、このカリキュラムの特徴は実習を早期に行い、技術トレーニングに重点をおいたものである。

表2 UKCC 共通基礎プログラムの到達目標の例

領域1 看護における倫理的課題

達成目標 Outcome Statement
1-1 看護実践のための専門職規定の意味するところの知識をもって討議する。
達成の指標 Outcome Criteria
a) 看護を規定する政策、ガイドライン、プロトコル、手順の役割について注目する。
b) いかに看護がヘルスケア提供における保健医療福祉政策とその変化に対応して発展してきたかを理解する。
達成を示す根拠 Evidence of Achievement
学生は以下のことができる。
● 専門職規定の目的と UKCC の機能について説明することができる。
● 実践領域で用いられている政策・ガイドライン・プロトコル・手順の中から3つを示すことができる。
● 安全な実践を促進するための政策の役割を説明することができる。
● 質の高い実践者の管理のもとで臨床的な手順やガイドラインに正しく従うことができる。
● 国家の政策や地域の政策がケア提供にどのような影響を与えるかを例を挙げて説明することができる。

カリキュラムは、9つのモジュールで構成されており、1年間は3つのモジュールで構成されているので、最短では3年間でカリキュラムを修了することができる。このことから、City University London では年に3回入学の機会がある。

学生が選択できるコースには、学位取得 (Degree) コースと登録看護婦資格取得 (Diploma) コースがある。この両者は、モジュール1から3の基礎教育 (Foundation Programme) は同じで、その後のモジュールのプログラムは同じであるが教育内容が異なり、学位取得コースには3年目に卒論が課せられており、授業内容も、分析力や批判力に重点をおいた教育が行われている。City University London では500人の学生のうち80人が学位取得コースを選択しているとのことであった。

以下各モジュールのプログラムについて簡単に説明を行う。なお、1モジュールは15週間、1日7時間、1週間は35時間で構成されている。

1) 基礎教育としてのモジュール1～3

＜モジュール1＞ 基礎教育は1から3モジュールで行われる。モジュール1は、実習以外の講義の時間を示す理論 (Theory) (9週間) と分野別専門領域実習 (Branch Specific Practice) (6週間: 成人, 小児, 精神領域) で構成されている。理論には教師が学生に個人的に指導する時間も含まれており、専門領域実習6週間には2週間の看護技術の演習が含まれている。専門領域実習においては、たとえば成人領域を選択した学生は一般内科・外科病棟、小児領域も同じく一般内科・外科病棟、そして精神領域は高齢者、急性期精神科領域で実習を行う。

＜モジュール2＞ 成人, 小児, 精神の専門領域に学生が5グループに分かれてローテーションしながらそれぞれの領域の実習を行う。表3は、このローテーションの一例である。この例では成人 (学習障害), 精神, 小児, 母性で実習を行い、そして2週間は自分が選択している領域の実習を行う。保育, 学校, 学習障害者の家庭での実習も行われる。

＜モジュール3＞ このモジュールは、全部で理論が6週間、演習 (Study) が3週間、実習が6週間で構成されている。また、理論には1週間の看護技術の演習が含まれている。

成人領域の学生は、一般内科・外科病棟、小児領域は訪問看護、保育、学校、そして精神領域は高齢者、急性期精神科で、それぞれ実習を行う。

2) 領域専門教育としてのモジュール4～6

＜モジュール4＞ モジュール4からは、領域別の専門教育になる。火災時の対処、避難方法、抑制および物品の取り扱い等についてもこのモジュールで学習する。このモジュールは、演習が1週間、理論が5週間、実習が9週間で構成されている。

成人領域の学生は、6週間の実習を (2週間の手術室実習を含む) 外科病棟で行い、小児領域は一般外科内科病棟で小児・家族のケアに焦点を当てた実習を行い、精神領域は、5・7・8のモジュールに継続できるように、急性期、コミュニティ、リハビリテーション、および高齢者のケアの実習を行う。

＜モジュール5＞ このモジュールは、理論が5週間、実習が10週間 (演習4週間を含む) で構成されている。

成人領域の学生は、ナースিংホーム等で高齢者のケア、小児領域の学生は、複雑な問題を持っている子どもや身体障害や精神に問題を持っている子どものケアの実習を行い、精神領域は 急性期、コミュニティ、リハビリテーション、高齢者のケアの実習を行う。

＜モジュール6＞ ここでは、学生は3つのグループに分かれてコミュニティとその他の選択領域で実習を行う。表3は1グループの一例である。このモジュールは理論が4週間、コミュニティが4週間、演習が3週間、選択領域での実習が4週間で構成されている。

成人領域の学生は、コミュニティと選択領域実習、小児領域はコミュニティー例えばクリニカルナーススペシャリストと民族や文化の異なるさまざまな環境にいる人のケアと選択領域実習を行う。また、精神領域は、安全な環境でのコミュニティと選択領域で実習を行う。

3) 学修を深めるモジュール7～9

＜モジュール7＞ このモジュールは、理論が2週間、講読 (Reading) が1週間、実習が12週間 (演習を2週間含む) で構成されている。

成人領域の学生は慢性疾患の長期療養のケア、小児領域は事故 (アクシデント) や救急、特別なケアが必要な新生児室でのケアを実習し、精神領域は急性期、コミュニティ、リハビリテーション、高齢者ケアを行う。

＜モジュール8＞ このモジュールでは、4日の夜勤実習が課せられており、理論が2週間、学位取得（Degree）コースでは卒論のための演習となるが、演習が4週間、実習が9週間で構成されている（表3）。

成人領域の学生は集中治療、事故（アクシデント）救急、小児領域は、循環器、オンコロジー病棟で実習し、精神領域は急性期、コミュニティ、リハビリテーション、高齢者のケアを行う。

＜モジュール9＞ このモジュールにおいても、4日の夜勤実習が課せられており、理論が2週間、実習が13週間で構成されている。ここでの実習は、学生が今までの学習を基盤に、より深めるための実習を行う。

成人領域の学生は、内科外科病棟、小児領域は一般病棟、そして精神領域は、今まで実習したところから好きな場所を選択して実習を行う。もし学生がすでに病院で働いている場合は、条件が合えば、それが実習単位として認められる。

4. 大学における臨床教育について

モジュールプランの内容からも分かるように、英国では臨床での看護学教育が重視されている。キングスカレッジやシティロンドン大学のような看護実務者を養成する大学はもちろん、エジンバラ大学のような大学院教

育に力を入れている研究者や指導者養成の大学においても教育プログラムは50%の理論（Theory）と50%の実践（Practice）から構成されている。

特にシティロンドン大学では看護学基礎教育（Foundation Program）において看護技術教育が強調されているので、今回その実際を紹介したい。

1) 基礎教育における看護技術教育

シティロンドン大学では最初の1年は基礎教育であり基礎教育の修了までに、身に付けておくべき Skills（看護技術）を学生に提示してある。学生は期待されるレベルにまで看護技術を習得していなければならない。

1年生の始め（モジュール1）から臨床での教育が行われるので、看護技術は基本的には臨床の場面で評価されるのであるが、実際にできる機会のなかった技術に関しては、臨床指導者や教員などの指導を受けて、何らかの実践の機会をつくり評価を受けなければならない。そのために Clinical Skills Center といわれる演習施設が用意されている。

Clinical Skills Center とは看護学を学ぶ学生だけでなく、医学部生や歯学部生（St Bartholomew's and Royal London School of Medicine and Dentistry）と共同で使う施設であり、看護技術実習のためのモデルやシミュ

表3 各モジュールのプログラムの一例

基礎教育としてのモジュール1～3のうちのモジュール2（1例）

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
プログラム	理論 1週間 (35時間)	成人1 学習障害 2週間(70時間)		精神 2週間(70時間)		小児 2週間(70時間)		母性 2週間(70時間)		分野別専門領域 4週間(140時間)				講読 1週間 (35時間)	理論 1週間 (35時間)

領域専門教育としてのモジュール4～6のうちのモジュール6（1例）

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
プログラム	理論 1週間 (35時間)	コミュニティ 4週間(140時間)				演習 1週間 (35時間)	理論 2週間(70時間)		選択領域 4週間(140時間)				演習 2週間(70時間)		理論 1週間 (35時間)

注) 学位取得コースと登録看護婦資格取得コースでは教育内容が異なる。

学修を深めるモジュール7～9のうちのモジュール8

週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
プログラム	理論 1週間 (35時間)	実習 9週間(315時間、内35時間の演習を含む)									理論 1週間 (35時間)	演習 (学位取得コースは 卒論のための演習) 4週間(140時間)			

注) 学位取得コースと登録看護婦資格取得コースでは教育内容が異なる。

レーション装置、オーディオ教材などがそろっており、臨床に近い状況で演習できるようになっている。この施設は学生が自分の学習の進捗に合わせていつでも使えるように整備されてある。

2) 技術教育プログラム

—Schedule of Skills Development—

学生はどのような技術をどの程度いつまでに身につければいいか、また指導者は学生がどこまで技術について学習がすすんでいるのかが、お互いに確認できるようにするために、Schedule of Skills Development という小冊子が使われている。この小冊子は、必要な看護技術がコミュニケーション技術は9項目、臨床の看護技術は10項目に分けられ、さらに実際の技術内容として細分化されている(表4)。それぞれの技術の評価は自己評価と指導者の評価があり、学生は評価を受ける技術について自己評価を行ってから、指導者の評価を求めるのであるが、技術によって達成目標とされるレベルが異なっている。

達成目標は5段階のレベルで提示されている。

0…臨床の場面でまだ経験したことがない

1 (Novice) …直接の監視下にあって実施できる、または常に指導が必要であるレベル

2 (Advanced Beginner) …直接の監視下にあるが、少しの援助で十分なレベルまで達成できる

3 (Safe Practice) …直接指導者がつかなくても少しの援助で達成できる

4 (Competent) …指導者の援助がなくとも内容や時間的にも満足のいく技術レベル

それぞれのレベルは、4つの側面から評価される。

それらは技能的な能力、知識を応用する能力、態度や感性に関わる能力、臨床の場面で実践できる能力である。指導者がコメントを書き、サインをして学生に渡すのであるが、モジュール3(1学年)終了までにこのように系統だった技術教育が行われている。

また、技術評価としては1990年から OSCE (Objective Structured Clinical Examination) を複数の大学が協同で採用しており、さらに実習指導者(Mentor:メンターあるいはメンター)に求められる教育能力については基準が提示されている。

5. 英国における卒後教育

表4-1 コミュニケーション技術一覧

1.1	あいさつの技術
	例:自己紹介
	:対象の年齢に配慮した言葉使い
	:文化的な背景を考慮した挨拶の仕方
	:落ち込んでいる対象への会話の始め方
1.2	別れるときの技術
1.3	気品と尊厳を保つための技術
1.4	自分を主張する技術
1.5	相手と適当な距離をおく技術
1.6	面接やアセスメントの技術
1.7	共感や慰めを与える技術
1.8	障害がある場合のコミュニケーション技術
1.9	実践を振り返る技術

表4-2 臨床看護技術一覧

2.1	観察とモニタリング技術
	例:脈拍、体温、血圧
	:意識レベルの観察
	:体重測定
	:血糖測定
	:情緒の状態の観察
2.2	心肺蘇生術
2.3	輸液の管理
2.4	栄養と水分出納
2.5	与薬の技術
2.6	排泄に関わる技術
2.7	感染防止に関する技術
2.8	創部の手当て
2.9	呼吸機能援助に関する技術
2.10	身体障害時の移動や環境整備に関する技術

英国における卒後教育(graduate education)は、学士取得者ばかりでなくすべての登録看護師を対象としており、生涯教育の発想で実施されている。

卒後教育は基礎教育と同様に UKCC と全国協議会が管轄し企画、運営および質の保証を行っている。各協議会では看護および看護学教育の質を維持・発展させるため養成所向け、個人向けの活動をそれぞれ実施しており、教育や看護現場における調査に基づきスタンダードカリキュラムや分野別コア技術マニュアル、より専門的な技術マニュアルを作成したり、キャリアマネジメントの方法を示したポートフォリオブックレットの配布などを行っている。

卒後教育の運営・実施は大学が請け負っており、スタンダードに基づいたコースが準備できた段階で UKCC

または協議会に申請を出し、認可されれば開講してよいことになっているが、定期的に UKCC 等による評価を受ける義務がある。

このように英国では国の方針がすみやかに実践へと具現化されているという印象をもったが、これは教育機関の種類に関わらずすべての看護学教育が NHS の元に統括されていること、そしてこれらの学校もまた保健医療施設も原則として国立であるためと思われる。

卒後教育の課程や科目の名称は大学によって独自であるが、修士課程、博士課程のほかに、学位に依らず専門知識を学習することができる高度専門課程 (Diploma of Higher Education : DipHE) などがある。高度専門課程では専門看護師の資格を取得できるものもある。それぞれの課程はフルタイムでもパートタイムでも履修が可能になっている。したがって自分のライフスタイルに合わせて、たとえば看護師として働きながら受講することも可能であり、実際そのような例が多いとのことであった。

開講科目は課程および分野間で共有されており、認定単位も共通のものである。このため同じ科目を高度専門課程の学生と修士課程の学生とが聴講するということもありうる。ただし受講には指定条件があり、たとえば、看護師の資格があれば受講できるものや、該当領域での実践経験を要求するもの、また学士の資格を要求するものなどがある。

開講されている科目数は非常に多く、期間・形態も様々である。我々が訪問したキングスカレッジでは、約 200 のコースが準備されていた。期間も 1 週間集中のものから半年かかるものがあり、取得できる単位や実習が必要かどうかといった科目の特徴によって多様であった。

このようなシステムにより学士を取得していない者であっても必要な科目を履修し単位を取得していけば、学士や修士を取得することができるし、修士課程や博士課程の学生にとっては、非常に多様な科目の中から選択することが可能となっており、合理的でかつ有効な仕組みであると感じた。

卒後教育を受けるために必要な学習資金については、個人がより高度な教育を受けたいと希望し、これを所属施設が了承するといわゆる出張の扱いでコースを受講で

きるといった仕組みが設けられていた。英国では NHS の方針に従い、各施設が非常に多くの予算を教育に分配している。ただし人気のあるコースでは希望者が多くなかなか順番が回ってこないため、個人の資金で受講する看護師も少なくないということであった。

以上のようなスタイルの卒後教育は、主に大学化政策によって新規に看護学部となった学校が請け負っていたが、その一方で古くから看護学部をもつ大学もあり、そのレベルの高さには驚かされた。たとえばエジンバラ大学は 1583 年開学という伝統を誇り、看護学部も 40 年の歴史をもち、大学院にはヨーロッパを中心とした各国から留学生が集まっていた。ここでは、共通プログラムに準じながらも、修士課程は成人看護と母性看護のみで、入学にあたっては厳しい選抜試験が行われるとのことであった。ヨーロッパの看護界をリードしていく精鋭を教育しているという自負が感じられた。

このように、英国の卒後教育は多様な選択肢を準備することで、個人の自己決定に基づくキャリア達成を支えていると実感できた。

おわりに

今回の英国における看護学教育についての視察で感じたことは、それぞれの教育機関が学生の到達度について極めて明確な指標を提示していること、および卒業後の教育環境が豊富に用意されていることであった。高等教育のみならず初等・中等教育を含めた教育全体が、「どこで」学ぶかが大きな問題なのではなく、「何を」学ぶかが重要なのであるという考えに基づいて構築されており、学生であっても、社会人であっても到達すべきところに到達し、単位を取得すれば、それに応じた資格や学位が授与されるという明解なシステムであることに気づかされた。英国でのこれらの学びを今後の教育活動に活かしていきたいと思う。

また、多くの皆様にご助力をいただきました。ここに深く感謝申し上げます。

註 1) UKCC (United Kingdom Central Council) : 英国看護助産訪問保健中央協議会。看護職の登録・教育・訓練に関するすべての事項に責任を持ち、看護学教育制度を統括する機関として 1980 年に設立された。2002 年 4 月より協議会のサイズダウンと IT 導入による合理化を目

的にNMC (Nursing and Midwifery Council) と名称変更された。これに伴い全国協議会も他種類の協議会と統合され、例えばスコットランドではNES(NHS education for Scotland) と変更された。

註2) NHS (National Health Service) : NHSは、住民の疾病の予防、診断および治療、それに身体的精神的健康の向上を保証するように設計された包括的ヘルスケアシステム導入の目的のために、1948年に設立された。英国におけるヘルスケアの提供・教育・研究における中核的機能を果たしている。

参考文献・ホームページ

- 1) NBS : Providing Standards Quality Assurance Handbook, 2000.
- 2) NHS : UKCC Outcomes for The Common Foundation Programme, 2001.
- 3) The University of Edinburgh : Department of Nursing Studies : Post-Registration/Postgraduate courses for Nurses, Midwives and Health Visitors, 2001.
- 4) City University London : Programme Module Plan for the RN/Diploma/Bsc & BSc (Hons) : Adult nursing, Children's Nursing & Mental Health Nursing, 2001.
- 5) City University London : Schedule of Skills Development, St. Bartholomew School of Nursing & Midwifery, 2001.
- 6) Nursing and Midwifery Council ([www. nmc-uk. org /](http://www.nmc-uk.org/))
- 7) NHS education for Scotland (www. nes. scot. nhs. uk/)

(受稿日 平成15年2月19日)